



会社名 株式会社ビーアンドピー
住 所 大阪市西区江戸堀二丁目6番33号
代表者名 代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥
(コード番号：7804、東証スタンダード市場)
問合せ先 経営管理部部長 近藤 恵太
(TEL. 06-6448-1801)

当社の2026年10月期 第3四半期決算に関して、株主や投資家などの方々からいただいたお問い合わせやご意見について、当社からの回答を以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものです。決算内容の詳細については、2026年9月9日に開示しております決算短信および決算説明資料をご覧ください。

第2四半期の需要拡大に続き、第3四半期はFIFAワールドカップ関連をはじめとする販促需要が大きく拡大したことで、業績も順調に迫り上げております。第3四半期累計実績は、通期業績予想に対しておおむね7割の進捗となっており、第4四半期についても、例年の販促需要に加え、アジア競技大会関連の案件等を見込んでおり、現時点では通期業績予想から大きく乖離することなく着地する見通しです。

プリントソリューション事業およびオーダーグッズ事業の売上拡大に伴い、外注費も増加しております。今後もこれらの事業に加え、2026 年 10 月期から開始したパッケージソリューション事業の売上拡大に伴い、外注費は増加する可能性があります。売上拡大による利益貢献とのバランスを重視し、収益性を確保しながら事業拡大を進めてまいります。

当社は、2026 年 10 月期の中期経営計画において、「シェア拡大」「機能拡大」「領域拡大」の 3 つを基本戦略として掲げ、高成長・高収益経営の実現に取り組んでおります。その中で、当社グループの事業活動に必要な経営資源を有する企業との M&A を重点施策の一つとして推進しております。今回、新たにグループに加わった株式会社新和（埼玉県戸田市）は、両面同時合紙が可能な設備を保有する数少ない企業であり、合紙・抜き加工を中心とした高度な技術力に加え、高品質かつ短納期で量産できる生産能力を有しております。

新和が加わることで、当社、イデイ、新和が連携し、企画・デザインからプリント、加工、量産、アッセンブリまでを一貫して提供できる体制を構築することが可能となりました。これにより、生産能力および提案力の強化、受注機会の拡大を図るとともに、首都圏におけるシェア拡大につなげていくことを目指しております。

質問4：生成 AI 動画コンテンツ制作を開始されるとのことですが、今後の投資規模についてどのようにお考えでしょうか。また、今後の収益化についても教えてください。

生成 AI 動画コンテンツ制作は、当社グループの今後の成長につながる新たな事業領域の一つとして、積極的に取り組んでまいります。

事業の立ち上げ段階では、大規模な設備投資や人員採用を先行させるのではなく、当社グループが有する既存の人員、顧客基盤、営業・企画機能等を最大限に活用し、スピード感を持って事業を展開してまいります。そのうえで、顧客ニーズや事業の拡大状況を見極めながら、必要な投資を機動的に行っていく方針です。

収益化については、既存の顧客基盤を活用した提案を進めるとともに、生成 AI 動画コンテンツ制作を当社グループの既存サービスと組み合わせることで、提案領域の拡大と受注機会の創出につなげてまいります。事業規模の拡大と収益性の確保を両立し、2027 年 10 月期からの業績貢献と早期の黒字化を目指してまいります。

質問5：生成 AI の普及が今後の事業に与える影響について、成長機会とリスクの両面からどのようにお考えでしょうか。

当社グループでは、生成 AI の普及を、広告・販促分野におけるコンテンツ制作の効率化や表現の幅を広げる機会と捉えております。一方で、生成 AI によってコンテンツ制作が容易になることで、制作物そのものでは差別化が難しくなるなど、広告・販促分野の競争環境が変化する可能性もあると認識しております。こうした環境の中では、単に制作物を提供するだけではなく、顧客の課題やニーズを捉え、独自の企画や表現につなげる力が、これまで以上に重要になると考えております。

こうした認識のもと、当社グループでは、生成 AI を新たな表現や提案の可能性を広げる手段の一つとして捉え、既存の事業やサービスとの組み合わせによる付加価値の創出に取り組んでまいります。その具体的な取り組みの一つが、Next Group Holdings 株式会社との業務提携による生成 AI 動画コンテンツ制作です。

同社の生成 AI に関する技術・知見と、当社グループが有する顧客基盤や営業・提案力を組み合わせるとともに、子会社のイデイが培ってきた企画・デザイン力や、当社のプリント、デジタルサイネージ等と組み合わせることで、顧客の課題やニーズに応じた幅広い提案につなげ、当社グループならではの付加価値を高めてまいります。

なお、生成 AI の活用にあたっては、著作権や個人情報等に関する法的リスクにも十分配慮し、適切な確認体制のもとで活用を進めてまいります。

※本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の予測であり、実際の業績は様々な要因により、これらの見通しとは異なる可能性があります。

以上